TL2UTILITY
（ユーティリティソフト）

取扱説明書

株式会社 エム・システム技研

NM-6192-W 初版

目次

1. はじめに 3

1-1 接続方法 3
1-2 インストール方法 3

2. ＴＬ２定義 4

2-1 定義ファイルの参照 4
2-2 ＴＬ２定義の登録 4
2-3 接続ポートの選択 6
2-4 生存状態の確認 6

3. 日付の変更 8

3-1 編集開始 8
3-2 読込実行 8
3-3 時刻書込 8

4. ＰＶ上下限値の設定 9

5. 通報フィルタ情報の設定 10

5-1 就業時間の設定 10
5-2 カレンダー表示 10
5-3 曜日指定 10
5-4 休日リセット 10
5-5 ＴＬ２から読込 11
5-6 ＴＬ２へ書込む 11
5-7 ファイルから再読込 11
5-8 ファイルに保存 11

1. はじめに

ＴＬ２ＵＴＩＬＩＴＹはＴＬ２シリーズ用ユーティリティソフトです。稼動状態で各種変更が行えます。ＴＬ２ＵＴＩＬＩＴＹで変更の行えない項目については、ＴＬ２Ａｄｍｉｎ（システム管理ソフト）やＴＬ２ＢＬＤ（設定ソフト）を使用し、ＴＬ２本体を保守状態にしたうえで変更を行ってください。

1-1 接続方法

パソコンとＴＬ２を接続する方法は下記の３通りです。

①専用コンフィギュレータ接続ケーブルで接続（形式：ＭＣＮ－ＣＯＮ又は、ＣＯＰ－ＵＳ）

②モデムを使用して電話回線経由で接続（ＴＬ２Ｆなどの対応機種）

③ＬＡＮ経由でパソコンとＴＬ２を接続（ＴＬ２Ｗなどの対応機種）

1-2 インストール方法

このソフトウェアは、弊社ホームページよりダウンロードが可能です。圧縮ファイルで配布されます。圧縮ファイルを解凍すると setup.exe ファイルが作成されます。setup.exe を実行するとインストールが開始されます。表示される画面に従って操作してください。

TL2UTILITY のショートカットがスタートメニューとデスクトップに登録されます。

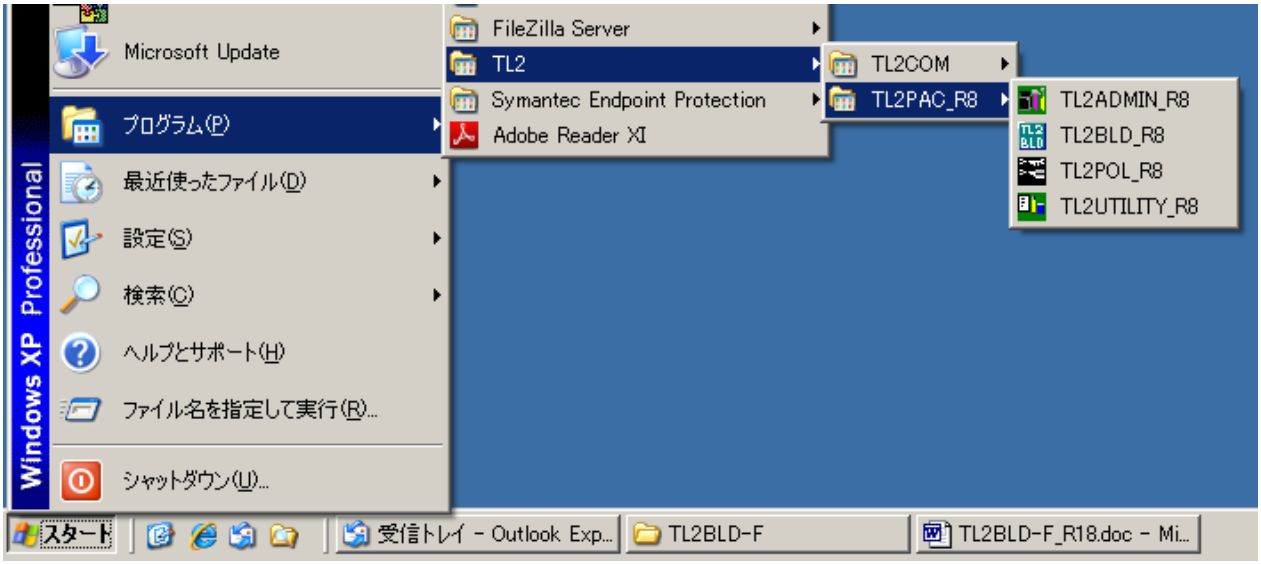

図１－１．スタートメニューへの登録

2. ＴＬ２定義

管理番号や電話番号などＴＬ２と通信を行う時に必要な情報を登録します。ＴＬ２を複数台登録した場合は、対象とするＴＬ２を選択してから時刻やＰＶ上下限値の変更を行います。

下記の２つの方法で登録が行えます。

（１）ＴＬ２ＢＬＤで設定した定義ファイルを参照します。

（２）この画面で直接ＴＬ２の管理番号や電話番号を登録します。

また、リストの先頭の「選択」オプションボタンをクリックすることで、接続する TL2 本体を指定します。生存確認、日付の変更、トグル SW の変更、蓄積データ初期化を行う前に、対象の TL2 本体を選択してください。

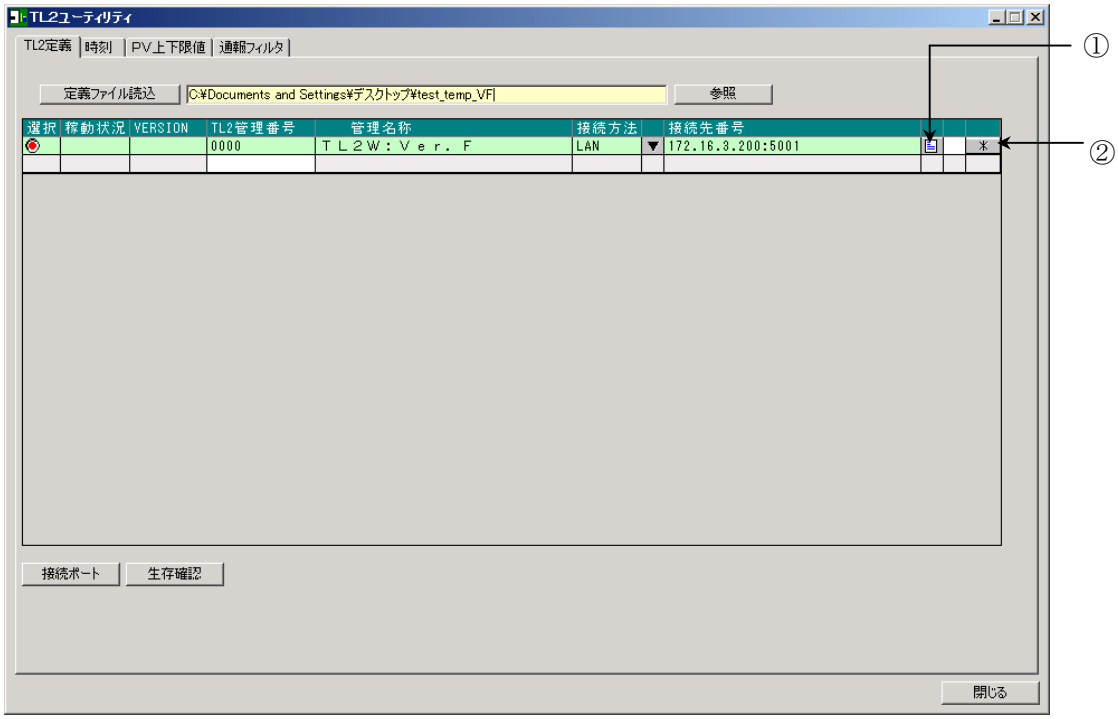

図２－１．ＴＬ２定義の設定画面

2-1 定義ファイルの参照

ＴＬ２ＢＬＤで作成した定義ファイルを参照する場合に設定します。「参照」ボタンを押すとフォルダの参照画面が表示されるので定義ファイルの格納されているフォルダを指定してください。

2-2 ＴＬ２定義の登録

2-2-1 定義ファイルを読込する場合

2-1 でフォルダを設定すると、「定義ファイル読込」ボタンの右側に指定したフォルダのパス名が表示されます(図２－１)。「定義ファイル読込」ボタンを押すと、下の表に参照したファイルの設定値（管理番号や管理名称など）が表示され、その行は緑色に変わります。

定義ファイルの参照については、同じ管理番号で複数のＴＬ２定義を登録することが出来ません。管理番号が同じ場合は同一のＴＬ２とみなして既存の行に上書きを行います。登録するＴＬ２の管理番号は必ず一意になるように設定してください。

ＴＬ２定義の設定画面（図２－１）

①：参照している定義ファイルのパス名を表示します。

②：参照している定義ファイルの設定内容を表示します。「定義ファイル読込」で定義ファイルの参照を行っている行については変更が出来ません。変更はＴＬ２ＢＬＤで行ってください。

2-2-2 定義ファイルを入力する場合

接続方法や接続先の電話番号などを一時的に変更する場合や参照する設定ファイルがない場合に使用します。ただし、管理番号やパスワードなどが分かっていることが必要です。

１．末尾の行（ＴＬ２管理番号だけが白色の行）に、対象となるＴＬ２の管理番号を入力します。その行のロックが解除されるので管理名称、接続方法、接続先番号（電話番号、ＩＰアドレス）を入力してください。

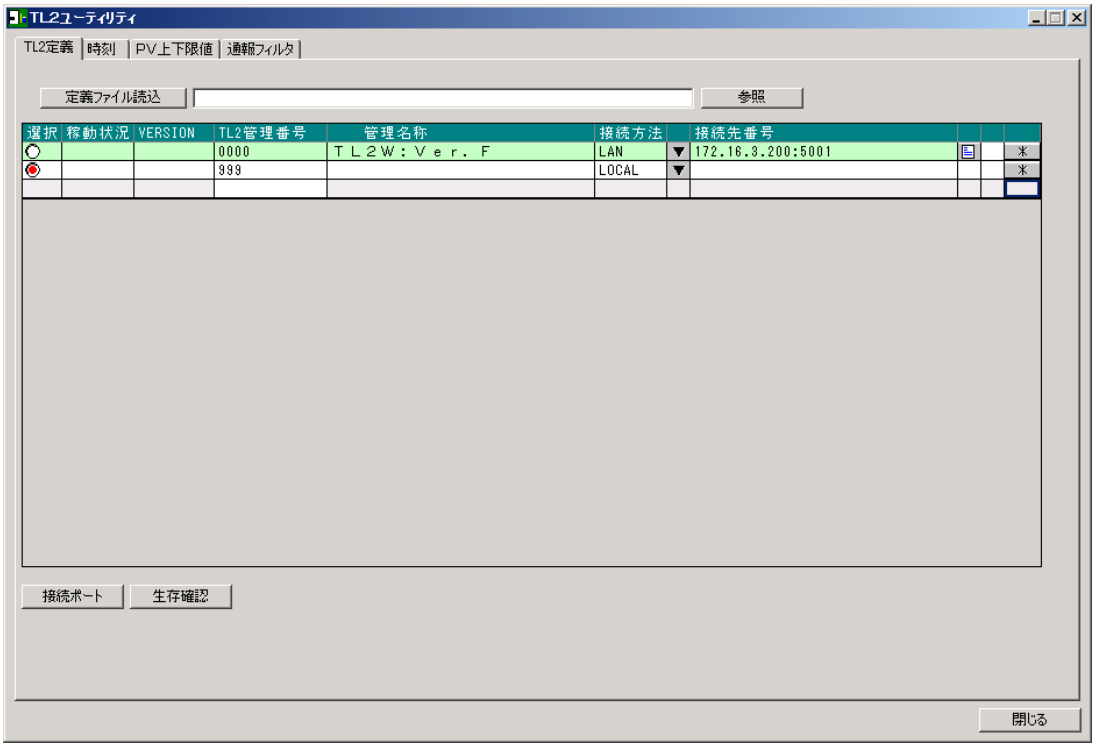

図２－２．ＴＬ２定義の入力

接続方法

①LOCAL：専用コンフィギュレータ接続ケーブルでパソコンと接続する場合です。
「接続ポート」ボタンからケーブルを接続しているパソコンのポート番号を設定してください。接続先番号の入力は不要です。

②MODEM：パソコンにモデムを接続し一般公衆回線経由で設定を行う場合です。
「接続ポート」ボタンからモデムを接続しているパソコンのポート番号を設定してください。接続先番号にＴＬ２の電話番号を登録してください。

③LAN　　：LAN 経由で設定を行う場合です。
接続ポートの設定は不要です。
接続先番号にＴＬ２のＩＰアドレスを入力してください。ポート番号は“5001”固定です。末尾に自動的に追加されます。

２．次に、「＊」ボタンを押し基本画面に移動してください。管理番号、ＰＣ着信パスワード、ＴＥＬ着信パスワード、接続方法を設定してください。登録が終わったら「ＯＫ」ボタンでＴＬ２定義画面に戻ってください。これで対象となるＴＬ２と通信が行えるようになります。

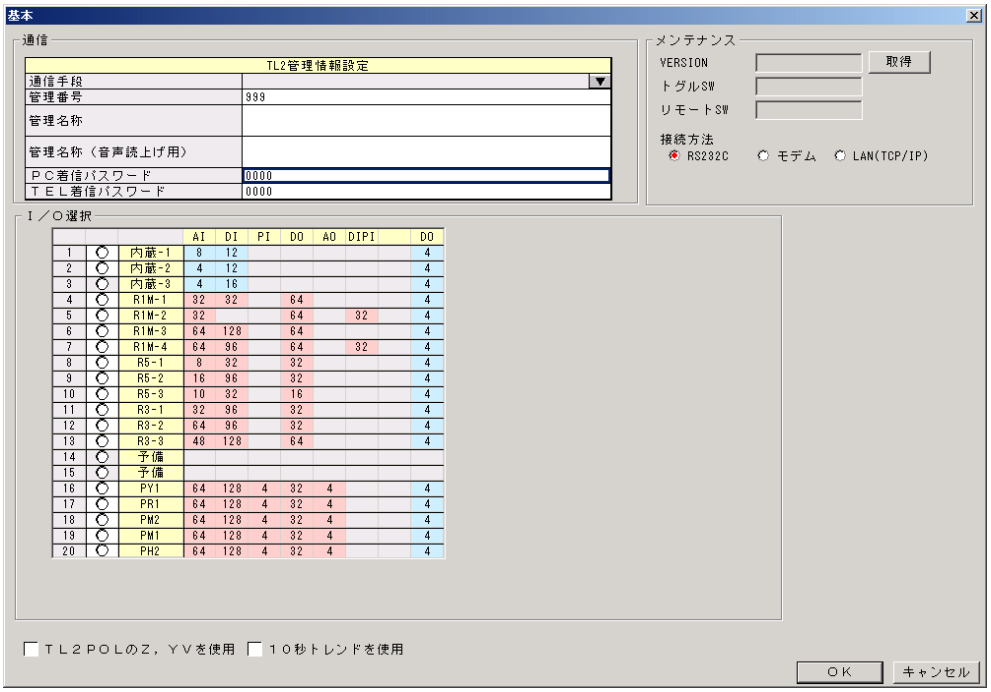

図２－３．基本画面

2-3 接続ポートの選択

ＴＬ２と通信を行うパソコンのポート番号を選択します。ＬＯＣＡＬ接続の場合はコンフィグレータ接続ケーブルが接続されているポート、ＭＯＤＥＭ接続の場合はモデムが接続されているポートを選択します。

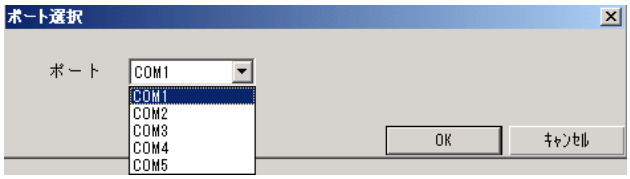

図２－４．ポート選択

2-4 生存状態の確認

登録されているＴＬ２が正常に動作しているか確認できます。またＴＬ２から応答があった場合は現在の稼動状態を取得します。通信を行う為には、管理番号とＰＣ着信パスワード（モデム接続の場合はＴＥＬ着信パスワードも）が必要です。ＴＬ２定義で設定を行ってください。

モデム接続の場合

TL2 本体とアナログ公衆回線で接続の場合には通信を行う際に図２－５の画面が表示されます。使用するモデムの指定やＴＥＬ着信パスワードも必要になります。

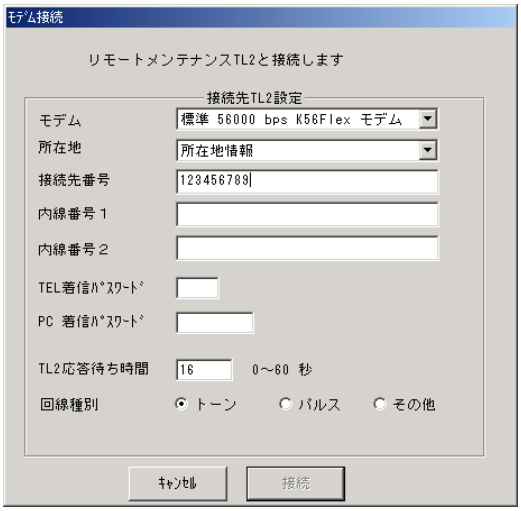

図２－５．モデム接続画面

ＴＬ２応答待ち時間：

ＴＬ２ＵＴＩＬＩＴＹが電話をかけてからコマンドを送るまでの待ち時間です。モデムにより若干、待ち時間が変わります。ＴＬ２は電話を受けてパスワードの要求（発信音）を行い、約１５秒間コマンドを待ちます。電話をかけてからＴＬ２が電話を受けるまでの時間を考慮したうえで、ＴＬ２が着信し発信音を出力してから１５秒以内にコマンドが送信されるように待ち時間を決めてください。モデムのスピーカをＯＮにしてＴＬ２からの発信音の後にＴＬ２ＵＴＩＬＩＴＹからパスワードのプッシュ音が出力されているか確認してください。また、音声機能付きのＴＬ２については着信のあと音声メッセージを読上げるので、更に待ち時間を長く設定してください。

3. 日付の変更

3-1 編集開始

日付の変更は、「編集開始」ボタンを押しＴＬ２と通信を開始してから行ってください。通信を開始してから１分を過ぎると自動的に通信が切断されます。また、「編集終了」ボタンで通信を切断することもできます。

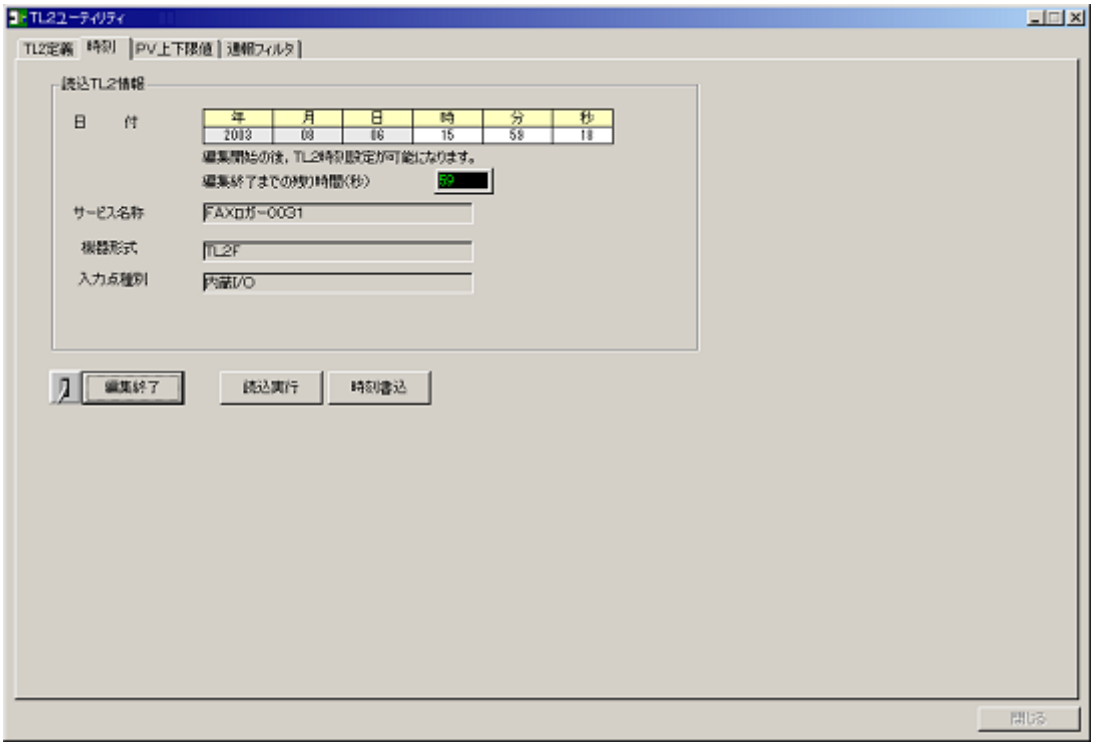

図３－１．時刻変更画面

3-2 読込実行

「読込実行」ボタンを押すことでＴＬ２の現在時刻を取得できます。

読込みは編集開始状態である必要があります。

3-3 時刻書込

当日の時分秒の変更が行えます。日を超えた変更は行えませんので、ＴＬ２Ａｄｍｉｎを使用し保守状態で変更を行ってください。編集開始の状態で時分秒に現在時刻を入力し「時刻書込」ボタンを押すと、ＴＬ２にその時刻が書き込まれます。時刻書込は２３：５５～００：０５の間は変更が禁止されています。

4. ＰＶ上下限値の設定

ＰＶ値の事象検出を行う閾値と不感幅、不感時間の変更が行えます。他のＰＶ設定項目は、ＴＬ２ＢＬＤで行ってください。

ＴＬ２定義画面でＴＬ２定義ファイル読込みを行った場合は各ＰＶボタンの右側にそれぞれのサービス名称が表示されます。各ＰＶのボタンを押すと対応するＰＶの設定画面（図４－２）が表示されます。

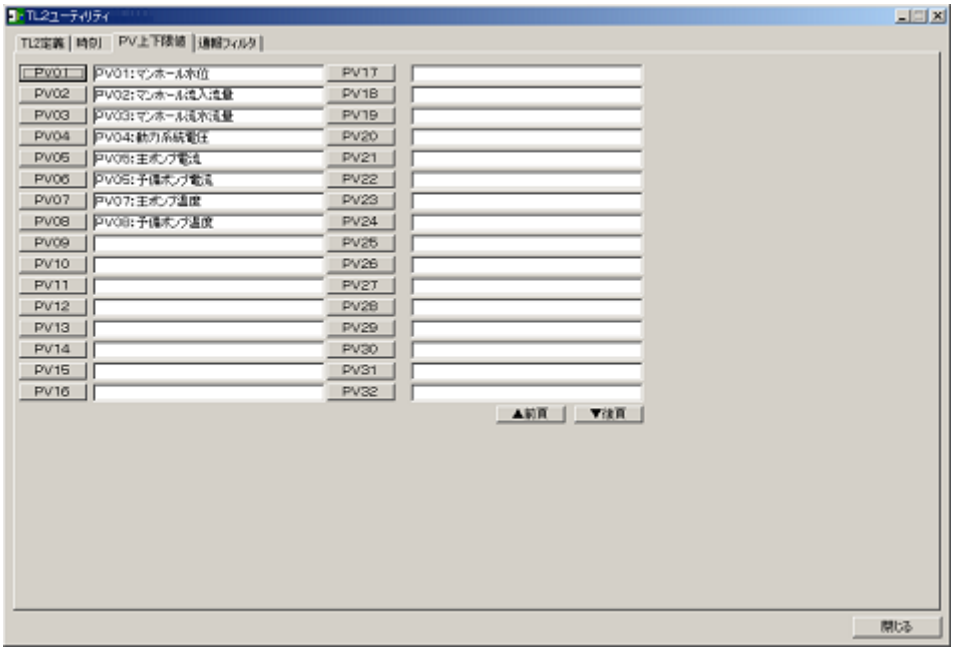

図４－１．ＰＶ上下限値の設定画面１

変更できる項目は、上々限値、上限値、下限値、下々限値、不感時間と不感幅の選択チェックボックスです。変更が終わったら「ＴＬ２へ送る」ボタンを押してください。変更がＴＬ２に反映されます。

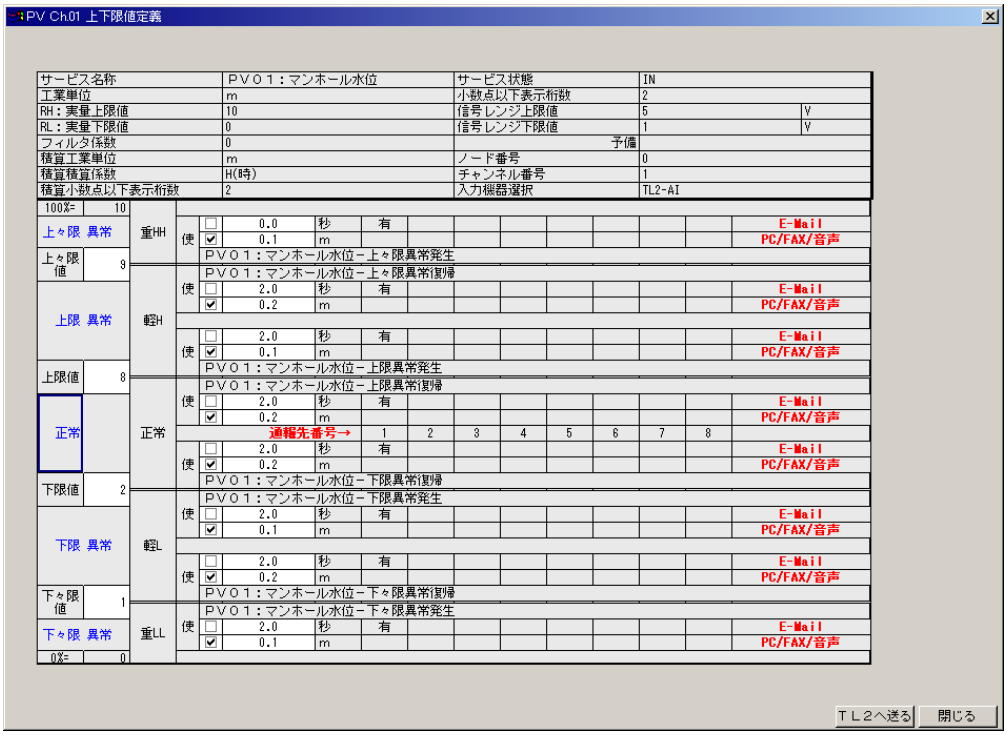

図４－２　ＰＶ上下限値の設定画面２

5. 通報フィルタ情報の設定

通報フィルタ情報として、就業日、休業日、定時開始時間、定時終了時間の設定を行います。

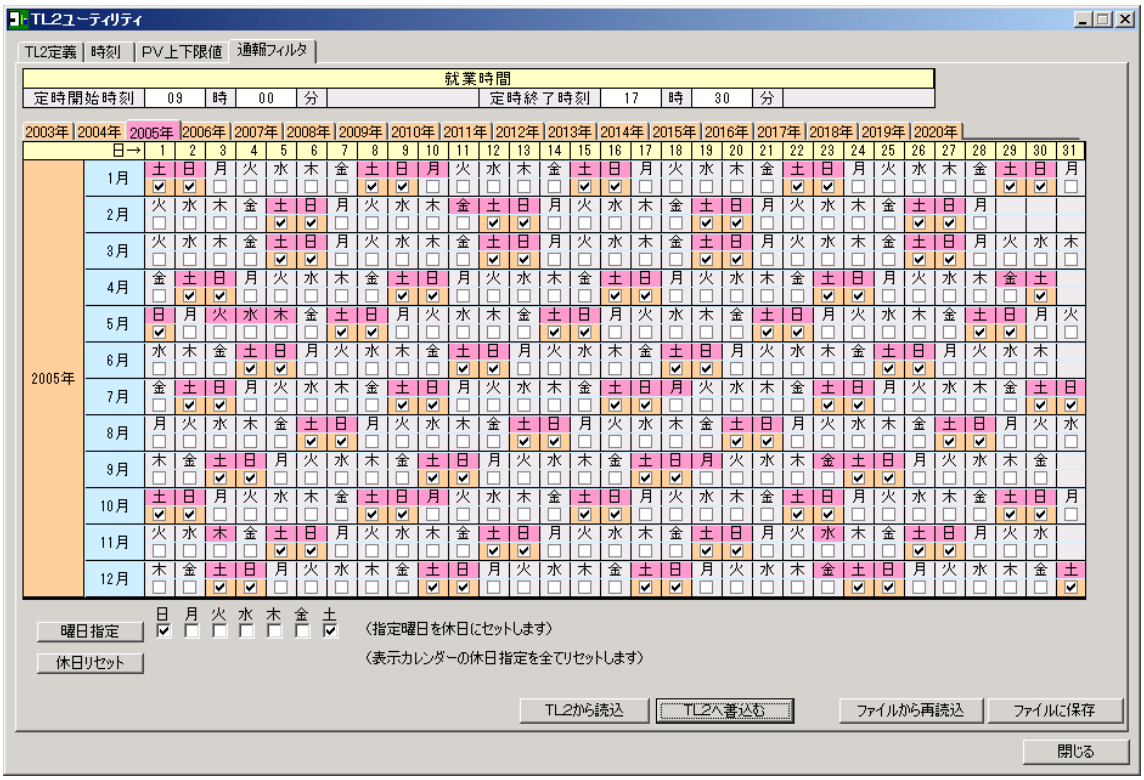

図５-１　通報フィルタ情報設定

5-1 就業時間の設定

定時開始時刻：定時の開始時刻を時、分で設定します。

定時終了時刻：定時の終了時刻を時、分で設定します。

（注）定時開始時刻と定時終了時刻に同じ時刻を設定したときは、定時間は 24 時間となります。

5-2 カレンダー表示

2003 年～2020 年のタブがあり、タブをクリックすると該当する年のカレンダーを表示します。

休日設定された曜日および祝日が赤色で表示され、休日設定されている日がチェックされます。

祝日については日にちが固定のもの、月の第何曜日と決まっているもの、および春分の日、秋分の日が赤色で表示されます。

また、自動で休日設定されません。

5-3 曜日指定

休日に設定する曜日をチェックします。

曜日指定ボタンをクリックすると、チェックした曜日が休日に設定され、カレンダーの該当曜日にチェックが付きます。

5-4 休日リセット

設定されている休日をリセットします。カレンダーの休日チェックが全て外されます。

5-5 ＴＬ２から読込

ＴＬ２に設定されている通報フィルタ情報を読込みます。

5-6 ＴＬ２へ書込む

通報フィルタ情報をＴＬ２に書込みます。

5-7 ファイルから再読込

ファイルに保存されている通報フィルタ情報を読込みます。

5-8 ファイルに保存

設定された通報フィルタ情報をファイルに書込みます。保存する際は全ての年が一括で保存されます。

設定データはＴＬ２ＵＴＩＬＩＴＹのインストール先フォルダの中に「通報フィルタ」というフォルダが作られその中に保存されます。保存ファイルは各ＴＬ２共通で１つ持っています。